

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	第6回川西市立学校校区審議会		
事務局(担当課)	教育振興部学校教育室学務課		
開催日時	平成27年3月17日(火) 午後5時00分～		
開催場所	市役所4階 庁議室		
出席者	委員	白井智美、山内乾史、末澤誠之、 松岡寛一、仲義弘、 後藤正順、安田未廣、 中井成郷、牧田千代子	
	その他		
	事務局	牛尾教育長、石田教育推進部長、上中学校教育室長、 若生教育振興部参事、中西学務課長、上原学務課長補佐、 辻原学務課主事	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会議次第	議事 (1) 諮問事項に係る審議について (2) その他		
会議結果	審議経過のとおり		

審 議 経 過

事務局	<p>それでは定刻となりましたので、只今から第6回川西市立学校校区審議会を開催いたします。開会にあたりまして、本日、久原委員、西村委員、乾委員におきましては欠席のご連絡をいただいておりますので報告させていただきます。末澤委員につきましては、遅れられると聞いております。</p> <p>はじめに会長よりご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いたします。</p>
会長	<p>年度末の大変ご多忙を極めておられる中、お集まりいただきましてありがとうございます。昨年より、校区について議論をしてきております。本日も引き続き熱心なご議論をよろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。それでは本日の議事進行につきまして、これより会長にお願いいたします。よろしくお願します。</p>
会長	<p>それでは事務局より、前回の資料につきまして報告があるということですのでよろしくお願します。</p>
事務局	<p>前回、資料1によりまして、文部科学省より公表のありました公立小・中学校の適正規模・適正配置に関する手引きでございますが、1月27日付の文科省の通知を兵庫県より2月9日に通知を受けております。特に変更はございませんでしたことをこの場で報告させていただきます。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。ガイドラインとして地域の実情に柔軟にとということでありました。先ほど申し上げましたように第3回の審議会以降、多田グリーンハイツ地域、それから清和台地区の2地域の校区について議論してきております。色々なご意見が出まして、統廃合が望ましいというご意見もございますが、一方で通学の安全や利便性保持という観点から少し疑問を持っておられる委員もいらっしゃる。現行の校区のままで良いのではないかというご意見もございました。本日はまず、統合することが望ましいのかどうかという入口の部分について整理をしていこうということでございます。まちづくり全体を考えて統廃合の是非を検討するというご意見もいただいたわけでございますが、校区審議会としては、まず教育的な観点から統廃合の是非について検討ということでございます。</p> <p>逆に校区審議会として、仮に統廃合をしたらその後をどうするかということについてこちらから積極的な提言をするというようなことで、前回まで3度にわたって議論してきたわけでございますが、事務局の方からこの案件につきまして原案を示していただいて、更に議論を進めていこうと考えております。事務局よろしくお願します。</p>
事務局	<p>事務局におきましては、両地区とも統合が望ましいと考えております。これまでから校区審議会におきまして、3つの原則により校区のあり方を検討してまいりました。</p> <p>それは、1教育の平等性の確保。2通学上の安全と利便性の保持。3校区と地域の関係性への配慮でございます。今回諮問の2地区につきましては、その3原則からも望ましいと考えております。1点目の観点からでございますが、3原則で最も重要な原則でございます。</p> <p>平成32年度には緑台小学校で8クラス、陽明小学校で9クラス、清和台及び清和台南小学校で10クラスといずれも標準の12から18学級を下回る見込みであること。それから小規模校におきましては、集団教育としての効果の希薄化でございますとか、教職員</p>

の配置基準の制約といった課題の他、特に新生が1学級になった場合ですが、卒業までの6年間、クラス替えがないことから学級編成における人間関係の配慮ができないなど、子どもによりましては厳しい環境になることも予想されているところでございます。学校間の規模の差によりまして教育環境が不平等にならないよう、標準的な学校教育を保障する必要があると考えております。

次に2点目ですけれども、通学上の安全性と利便性につきましては、通学距離が延びるものの、現在の通学路を利用するということになるため、一定の安全性の確保は図られていると考えております。また、統合後も基準範囲内の4km以内の距離であるということでございます。

3点目の校区と地域の関係性についてですが、統合する学校につきまして、1コミュニティに2校ということから、統合後も学校と地域の関係性は継続するということから、学校校区審議会の3つの原則を総合的に勘案しまして、学校の統合が望ましいと考えているところです。以上です。

会長

ありがとうございます。

委員

今、事務局から示していただいた原案について意見をいただこうかと思います。

今、3原則と言われましたけど、2点目の安全性の確保というのは、2校あるから安全性が確保できていないかということではなく、これが1校になっても同じことなんですよ。その原則性という点から言えばおかしいんじゃないかなと。平等性という点で、平成32年、緑台が8クラス、陽明が9クラス、という少子化による減数はやむを得ないのかなということもあるのは事実です。ただ、2点目、3点目というのは何でだという疑問がありますし、そういう面で3原則と言われたら、2つの原則はちょっと理解しがたいというように思います。

会長

各委員にうかがいたいと思います。

委員

今の事務局の説明では十分理解するんですけども、今後の事業のスケジュールを見たとき、ただ仕方なしに緑台あるいは清和台・清和台南の統廃合をしていく方向を出していかなければならないだろうと私も感じております。ただ、1点、事務局から全然話がなかったんですけど、5%枠のことはどうするのか。前回、新しい学校をつくり、統廃合するのか、あるいは今の既存の学校のどちらかを使って統廃合するのかとの質問に、どちらかの学校に統廃合するということと言われたと思うのですが、その通学の距離がですね、4km以内で増えているんですけども、どうしても遠い所にだったら5%枠というのがあって、それを利用するんじゃないかというのが考えられるんですけども、統廃合した場合にその5%枠をどういうふうに考えておられるのかが出てこないんですよ。極端に言ったら陽明小学校より緑台小学校の緑台の方は多田小学校の方が近いわけだから、そのあたりをどうというふうに考えておられるのかなというのが今の説明ではなかったもので、今後、考えていかれるのか、どう感じておられるのかお聞きしておきたい。

会長

2委員の疑問に対して事務局の方から

事務局

まず、初めに3原則の関係でございますが、ちょっと説明が足りなかった部分があったと思います。例えば、2つ目の原則、通学上の安全性とか距離でございますが、例えばここで統合した場合に通学できるような距離ではないような広範囲になってしまうんですけど、3点目のコミュニティとの関係で言いますと、統廃合することによってコミュニティ

	<p>が分断されてしまうようなケースでありますと、1つ目の学校教育の十分な展開ですとか、平等な教育を提供するという原則があるにしても、2番目、3番目の原則によって統廃合にならないケースはあると考えますが、今回の2つの地域につきましては、通学距離とかコミュニティの関係につきましても、統合によって状況が悪くなるということではありませんので、そういう意味では3原則に則って統合が望ましいというような判断をしたところでございます。2点目の校区外就学希望制度につきましては、現時点では従来どおりの運用を考えておりまして、例えば、統廃合後に隣接する多田小学校に行きたい児童の方につきましては就いていただけるように考えております。</p>
委員	<p>5%枠で、多田小が出てきましたけど、地域で言いますと多田中学校の上の地区あたりは多田小学校に近いわけです。そこへ行くことによって、行事ともに学校へ行ってしまから、緑台・陽明コミュニティから行事に参加しないということで、分断されるという懸念もあるわけですね。それと通学路の安全性というのは距離が長くなればなるほど安全度が低くなると思っているんですが、そういう点で2つが1つになって安全性が確保されるというのはちょっと疑問に思うんです。配慮かなにかして欲しいと思います。</p>
委員	<p>以前提言させていただきましたが、5%枠を採用している中で、我々コミュニティあるいは自治会は毎年活動がしにくくなってきているんですね。これは会長会議なんかにもよく話が出ますが、校区と違う学校に行ったら、その行事に参加するわけです。それで自治会を抜けていく。それでコミュニティの数が減るという風に5%枠が大きな問題になっているんです。緑台あるいは清和台の統廃合をするのであれば、その辺のところを考えないと。多田小学校に近い人たちが多田小学校に行きだしたときに、どうしても緑台のコミュニティの中、あるいは自治会の中で抜ける会員がだんだん増えてくるわけですね。一緒に考えてもらわないと。統廃合は、統廃合やったらいいと思うんですけどそういうような問題をどういうふうに解決していくのかという。地域のいろんな行事に携わってくる時に大きな問題になってくるので、しっかりと考えていただければ。5%枠がひっかかってくるのは地域の活動ができなくなってくる。自治会活動ができなくなってくる。コミュニティ活動に支障を来してくると。コミュニティは小学校区ですので。</p>
委員	<p>明らかな問題で解決策をお願いしようと思います。現実に地区のものがそちらの行事に行くことによって従来参加していたのが薄れるっていうのは事実なんです。現実に緑台中学校の校区変更がありました。いつも我々の体育祭では多田中学のPTAのお母さん方が手伝いにきてくれてました。校区が変更になったため、そこから来ている生徒さんは少ないので、もうお手伝いに行きませんよと。こんな現実があるわけです。他の地区でも良く耳にすることなんです。少し不安を持っています。正直言いまして、多田中のすぐ上の住宅地の方が陽明に行くより多田小行った方がずっと近いし楽なんですよ。距離も短い。そういう面でちょっと危惧をしている。原則的にすべて反対と言っているわけじゃない。</p>
委員	<p>事務局の説明の中での3原則の中の教育的な平等性はやっぱり教育上の効果を上げるためにはどういう形が一番いいのかが一番大きなポイントとして考えておく必要があるのかなと感じています。その中で統廃合やむなしという部分もあるのですが、であれば、1つ特徴を活かすものを、それぞれ2校区ありますので、どのような形で子どもたちにこの地域の特色なり特徴なりを活かすのか、前向きな考え方をというのが今の考えです。</p>
委員	<p>先ほど事務局の方から3つの点に言及しましたが、デメリットがあるからそれをここ</p>

で分けるとクリアにできますよという話だったと思うんですけど、逆にそのデメリットの裏側を考えると、メリットというところを出していく必要があるのではと感じています。例えば、教育の平等性というところでは、統合したらこういう効果がありますと。2つ目の安全性と利便性では、デメリットがある。3つ目のコミュニティについてもデメリットはあるけれども教育の平等性というところにおいて、すごく大きなウェイトを占めるんですよというところがないと理解を得ることは難しいと思います。例えば統合することによってプラスなところが出てきます。特徴的に体験的な活動を多く取り入れるような特色ある学校です。地域とのつながりのある学校にしていこう、高齢者と子どもたちが一緒になって触れ合えるような、そんな所をつくっていこうと思いますとか、こういう特徴的なプラスでの統廃合による面をだしていくことが地域住民にとっても説得力があるんじゃないかなと。そこによって子ども自身も教育的にアップしていくんじゃないかなと。こういうことを考えております。メリットというところを多田グリーンハイツ、清和台それぞれ、こういう素晴らしい学校ができますよというところをこの場で出していただけたらなと考えております。

会長
事務局

今の点について事務局からございますか。

統廃合によるメリットでございますが、前回、前々回に資料としてお示しさせていただいた、学校規模によるメリット・デメリットというところからもう少し具体的に説明させていただきますと、例えば、集団の中の考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を更に伸ばしやすいところですか、例えば運動会などの学校行事、音楽活動等の集団競技活動が生じやすいとか、また、児童数・教員数がある程度多いために多様な指導形態・指導形態がとりやすい等が大事な所としてあがってくると考えています。

会長

学校教育としてのメリットは今おっしゃったような面があるかと思いますが、当該コミュニティへのメリットというか、プラスの影響はということですね。その点に関して、仮に統廃合されたとしたら、あとどういう利用をするのかという議論にまた戻ってくるわけですが、そのあたりに関して委員がおっしゃったような議論というのは事務局としてはいかがですか。

事務局

統廃合後の跡地の利用等につきましては市全体の中で検討していくことでございますので、ここで何かお示しすることが出来るかというとならない状態です。

会長

前回会議の後で、はっきり決まったものはないということで、他の部署がその責任を持っておられるとお話いただき、分かっていますが、校区審議会としてこの点についてこういう風にしたらどうだろうという提案を何かのかたちで盛り込んでまとめるという事ができるのでしょうか。

事務局

跡地利用については地域のまちづくりとなるような有効に活用するようなことは盛り込んでいただく。更にもう少し踏み込んで盛り込んでいただくことは可能だと考えております。

会長

教育上のメリットは必要ですが、コミュニティ活動へのメリット、統合によるメリット、跡地をどう利用するかにかかっているわけですが、その観点から、各委員より今日建設的なご提案をいただきました。それを盛り込むということではいかがでしょうか。そういう方向でよろしいでしょうか。

委員	<p>地域といいますとコミュニティを含みますし、多田グリーンハイツ地域は非常に自治会組織が強力で、コミュニティはまだ15年の歴史しかございませんが、自治会は50周年を迎え、地域の90%以上を管轄しています。学校、幼稚園もそうですが、校区の2校が1校になるということは、1校どちらかの校舎が空く。その校舎を活かしつつ高齢者を含めたまちづくりと活性化の為のまちづくりができるのではないかと。何も方向性が出ていない中、新年度から地域分権推進課の支援で講師の派遣などあるのですが、その支援をいただきながら学校園問題について取り組んでいこうという計画をしています。こういうセクションの方も入ってこられるのがベターじゃないかと言っておりますが、それが出来ないのであれば我々の意志というものをに入れていかなければならないと思います。</p>
委員	<p>先ほど会長が言われたように答申を出すときに我々の意見としてどの辺まで踏み込んだ答申を出せるのかなと。委員が言ったように跡地をどういうふう利用するのかというのを市の方も施策で考えているところがあるだろうし、我々はどこまで踏み込んで答申として出せるのかというのがわからない。ただ単に出して終わりなのか。出したらやっぱりやってもらわなということもあるんですよ。事務局サイドが全然できてないから、部署が違うから当然出せないと思うので、そのへんの所はやっぱり答弁できる人が来てもらえたら答申を出すときもちょっと違うのかなと。校区審の声を生で聞いてもらったらいいのかなと。清和台地域がどういう風に思っておられるのか我々全然分からない。清和台の会長とコミュの会長がどういう風に考えておられるのか。後の土地利用をどのように考えておられるのか聞いてみないと分かりませんので。違う校区の者があれやこれや言えない。ですけども、その答申にどの辺まで出せるのかなと。希望は何ほでもありますよ。</p>
会長	<p>希望は希望として出していただくということは必要なんですが、今委員がおっしゃったように、書くだけで終わって文言だけでなんかガス抜きで終わってしまうのもあれなんで、その関係部署の方に最後、答申まとまる時にですね、それについてなにか一言いただかないとただ単に踏み込んで書いてまとめたけども、統廃合だけが為されちゃうと答申が活かされないので議論もむなしいですし。そのあたり事務局としていかがか。お願いします。</p>
事務局	<p>統廃合した場合の跡地利用について、ご提案いただいておりますが事務局としては答申の中に盛り込むとしても、その中の活用の仕方についてまちづくりの視点を入れるのであるとか、そういう文言になって、提言的なものになるのが限度かなというよう考えています。具体的にその校舎を何に使うのであるとかは審議会の内容にはそぐわないかなと考えています。統廃合した場合、残った校舎については耐震工事も済んでますし、地域の拠点にもなるべきところありますので、その活性化については速やかに考えていく必要があると思っています。答申の中でしたらそこが落としどころかなと考えています。以上です。</p>
会長	<p>どこまで踏み込んで良いのかっていうのが分からないのです。具体的に、ある程度踏み込んで良いんだけどここから先はダメというラインが見えにくいところなんですね。</p> <p>非常に曖昧とした精神的な文言であれば、もちろんまとめにも上がってますし、それも活かされるということになるかもしれませんが、どこまで具体的にしたら良いのかももう少しわかったほうが議論も進めやすいと思うのですが、</p>
委員	<p>過去に、加茂と加茂西が統廃合したときに、加茂小学校の跡地利用について、色んな要望があり、市に対しても要望が出されたが結局何もしないで現在、放置された状態になっ</p>

委員	<p>ている。色んな利用方法が出て来ても、倉庫になっており現在に至っているという状況。計画になるのかわからないが、話を詰めておかないと当該会長さんには不安だと思う。跡地利用について、ある程度のプランを提示していただかないと、地域の学校という意識が非常に強い我が地域については皆さん納得できない点があるのかと思います。</p>
会長	<p>関係部署の方が何らかのかたちでこういうふうを使うんだと、こういうメリットがあるということをお示しいただくか、我々の方から提言したもの、少し踏み込んだものが、関係部署どういうふうに取り扱っていただけるのか、そのあたりの見通しを少しお示しいただきたいということだと思います。難しいとは思いますが、お願いします。</p>
事務局	<p>双方気持ちは分かるんですけども、今担当が来て、本当に地域のニーズ・地域の要望というものもきちっと吸い上げた中で絵を描いていく必要があるかなと。それを待って統廃合を決めるのであれば、ちょっとスケジュール的には違うんじゃないのかなという気がしています。基本的にはここで学校のあり様を探るべく統廃合する。その中の跡地利用については要望を十分に吸い取ったうえで協議をしていく必要があるというような内容であるならば具体的に何に使うとかということにはきちっと時間をかけて担当部署が地域と協議していく必要があるのではないかなと思います。統廃合された跡地が放置されたままの状態であるというのは本当に好ましくないと思いますので、そういうことについてはやはり答申の中に入れていただくのは吝かではないかなと考えております。</p>
会長	<p>原案が事務局から示されまして、それに対していろいろご意見を伺っているところでございます。原案は両地区とも統合が望ましいということでありまして、この校区審議会で3つの原則に基づいて検討しているわけですが、教育の平等性の確保、通学路と利便性の保持、校区と地域の関係性への配慮。この3点において、この3原則の観点からも統合が望ましいのではないかとということで原案が示されまして、今委員さんにご意見うかがっているところです。</p>
委員	<p>前回（資料）のものを見ましたが統廃合の緊急性について疑問がありまして。というのもメリット、デメリットの関係が何にも提示されていない。なかなか分からないわけです。また、ここまで行くのに本当に危険性は非常に現実に高いというのは、本当にそうなのか。安全なのかということ。早くせんなあかんのやったらメリット・デメリットをしっかり分析して、事務局案も良いけども委員に納得する説明をしていかないと。資料が無いのに判断のしようがない。もっとわかりやすく。厳密には特にメリット。統合しなければならぬメリットはこうなんですと。資料は、現場とあっているんですか。もうちょっと分かり易く各委員に説得力を持って説明しないと何にもならないですよこの話。そうすればもちろん頭から反対じゃなくて、分かり易くしていただかないと皆さん他の委員以外に話できませんよ。それで何を急ぐんですかってことですね。急ぐなら必要性をお願いしたい。統廃合後の利用関係が大事なんです。小さければ小さいで小学校にもやり様があると思う。大きくて、もちろん運動会とかそういう、それこそ小学校を集めてやるなり工夫すればいい。統合ありきという感じがします。私だけかもしれないですけどね。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>統廃合はやむを得ないかなと思っています。教育環境の向上と移転については実際にやってみないとどう出るかわからないと思います。</p>
会長	<p>ご意見をうかがっていて教育上のメリット・デメリット。特にそのメリットの部分につ</p>

<p>事務局</p>	<p>いて安全性が如何に具体的に図られるのか、それが前回からのご指摘なのですが、そのあたりもう少し積極的な、具体的な資料で考え方を示すことはできないのかということと、もう一つは、コミュニティへのメリットが、見えやすい形で出ないものかと。以前、経済的なメリットということについても、資料を整えてまたお示しいただくということだったかと思いますが、その3つの点からメリットをもう少しわかりやすく積極的に示すと各委員それぞれの立場からおっしゃったのかと思います。</p> <p>やはり3原則の1番目の教育的配慮というところを重点的に考えておりますので、その観点からどういうものが望ましいかをご審議いただければと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>統廃合するわけですからやはり負担があると感じております。2地域の小学校についてはコミュニティとか自治会の方々の支援をすごく受けている。そういうところに特色をもっている学校でもあります。このような取組みが統合することによって、よりたくさんの児童に広がっていくというのが十分メリットかなというふうに思っています。</p> <p>地域の方々に学習支援していただいたりとか、地域内の自然についてボランティアと一緒に協力してやるとか、そういう活動が非常に活発でありますので、そういう良さというものを共有するような小学校になって欲しいなと考えております。それから、統廃合ありきではございません。先ほどもまさにこれからの生徒・児童数を見ていく中で、やはり今回の統廃合だけではなくて、複数の学校でそういうような要素が出てくると思っています。</p> <p>先ほどもお話ししましたように、コミュニティをまたがった場合は、単に統合するのが良いのか悪いのか、より慎重に進めていくべきだと思っていますが、自治会、コミュニティが1つで、これからも連携してその学校を盛り上げてくれるであろう、支援していただけるであろう、そういう見込みであるということが1つです。それから緊急性についてみますと、1学級のまま6年間上がるというのはメリット・デメリットそれぞれあると思います。デメリットになった場合の大きさがちょっと大きいのではないかなと。少人数で非常にうまくいくという場合もありますが、もし仮に困難な場面になった時に複数年間続くというのは厳しいんじゃないかなと。それを考えました時に、統合して複数学級になるのであれば統廃合していくべきではないかと思いました。前々回の資料ですが、平成30年には多田グリーンハイツ地区、やっぱりそれぞれ単学級になると。極めて少ない人数の単学級になるということが考えられます。清和台の地域につきましても平成31年に非常に少ないような状況になると。ということは、やっぱりそこを目途に答申をいただいて、その中で地域の活性化についても時間を取ってじっくりと練っていく必要があるかなと考えております。</p>
<p>会長</p> <p>事務局</p>	<p>資料があるようですので事務局よりお願いします。</p> <p>資料1をご覧ください。これは前回のお示した資料の7を各学校に運動場敷地面積と最長の通学距離を加えて参考資料とさせていただきます。改めて作成させていただいたものでございます。2ページ、裏面の3ページにつきましては前回と全く同じものになっております。今回、表に運動場用地の面積を示させていただきますので、また図面を見比べていただきながら参考にさせていただきたいと考えております。</p>
<p>委員</p>	<p>距離は分かる。坂があるので、実際歩いてもらって何分くらいかかるか分からない。例えば小学生が歩いたら平均これくらい。3年生だったらこれくらいとかなと安全性とか分かりません。なるほど、このくらいやったら多分30分はかかるか、もっとかかるかと</p>

事務局	<p>思うんですね。実際どうですか。経験上、分かれば教えて欲しい。</p> <p>ご指摘のありました時間ですが、年齢によって体力差もありますので、時間も異なって来ると思っております。それぞれの学年の時間がどれくらいかというような資料はございません。ただ、今回国の方でも示されているとおり、通学の時間について、1時間以内というようなところでありますので、ご指摘部分につきましても、概ね1時間以内での通学時間であると考えているところでございます。そこで地形によっては坂があるようなところもございます。例えば緑台地区でございましたら、緑台小学校は多田グリーンハイツのかなり上の所でございます。坂も急なところがございます。陽明小学校はすこし下の所でございます。何れにしても坂道ですが、高さにつきましては違う所があるかなと。ご指摘いただきましたところで、資料が不十分だという、地形などがありますがご検討いただければと。</p>
委員	<p>平坦じゃなく、例えば緑台1丁目の標高が87.3mのところから陽明小学校に向かって1回124mのところまで登り、少したらだと、その差3、40mある高低差を子ども足、低学年でどう感じるかというような点をやっぱり斟酌しなくてはいけないんじゃないかなと思っています。</p>
事務局	<p>少し補足させていただきます。他の小学校区を見た時に、この統廃合の時の距離以上に遠いということがございます。実際歩いてみるとどれくらい時間がかかるのかにつきましては、また次回以降資料としてお示しさせていただきます。</p>
会長 委員	<p>今まで議論してまいりましたが、他にご意見ございますか。</p> <p>お聞きしたいのですが、気持ちはどうなのかというところで。</p>
	<p>ある地域なのですが、神社とかお寺がないので、小学校を神社とかお寺みたいなそういう心の必要な場所、ところ。地域にとって心の必要な所にしたいなと感じているという話を聞きました。そこである小学校がなくなりました。なくなることが決定しました。たぶん行っている小学生、保護者、地域にとってはいろんな思いがあると思うのですが、どう言う気持ちなのかというところをお聞きしたいと思います。</p>
委員	<p>今ご質問のあった点、非常に難しいと思う。私は、1万6千人分の1人の意見としては、なくなったから地域が疲弊するとかいうことはないと思います。と言いますのは、多田グリーンハイツ地区というのは地域の住民と学校が非常に良い関係で、ご承知と思いますが、緑台小学校と陽明小学校の3年生。これは学年上に上がってもそうですが、春の桜というところで自然環境をやっております。そういう中で緑台小学校3年生がJ Aバンクの県の発表大会で教育委員長賞をもらったという、地域と地域の人が一緒にバスに乗って現地の発表会場まで行くというような環境の中でやっております。いろんな面で非常に地域とのつながりの強い学校ですから、一方の学校に愛着を持っている方は1つの学校、今後どうなるかは別としまして、1つの学校が無くなるということに対しましては卒業者の保護者は、非常に寂しい思いをなさると思うんです。幸いと言ったら失礼ですが、私は子どもが小学1年間だけで東京行っちゃいましたんで、早々学校にお世話になった記憶がないんでこんなこと言えるんかもしれませんが、1万6千人分の1人の住民としては特に寂しくなるというような感じはしなくて、むしろ1つになることによって教育環境が非常に良い地域ですから。更に良くする、システムの問題などもありますし、良くなれば若い人が移り住んで来てまちに活気が出るんじゃないかということもありますし、地域の方がどう</p>

委員	<p>思うと言われた時に、私自身としてはそういう返事くらいしかできません。それから2、3アナウンスしている対象者から言いますと、これだけ減ったら、少子化でやむを得ないなという声も多々聞こえてくるのも事実です。また幼稚園の廃園問題と違った答えが返ってきているのも事実です。ということをお願い。</p> <p>川西は縦長な地形で、古い地域、昔からある地域と、川西は住宅都市として発展してきました。昭和40年代にニュータウンが出来てからその地域と昔からある地域との感覚が違うのです。小学校といたって、我々はまちの、村の小学校という感覚です。</p> <p>そういうところの小学校が極端に無くなるというのは今回ちょっと感じが違うということです。大変難しいところ。加茂小学校が無くなる時、実はそうだったんですね。</p> <p>加茂小学校が無くなって新しく加茂西に統廃合されたわけですね。色々問題があったかと思います。昔から村、地域とともにそこにあった小学校が無くなるというのは大変反響も出るし寂しい。今回、多田グリーンハイツ、清和台は、小学校は2つあるけどコミュニティは1つということで、コミュニティとしては先ほどのような気持ちになってくると思うんですね。卒業生にしたら寂しいですけども、1コミュニティに2校あるので、その感覚からすると違うのかなという感じがします。だから、川西は特に地域差があると思うんです。</p>
委員	<p>旧加茂小の記念館っていうのが旧加茂小の体育館の2階にできてるんですけども、やっぱり母校愛といいますかね、先輩がですね、「おらが学校」という気持ちをずっと持っているということはやっぱり統廃合を進めるうえにおいて先ほど言われましたけども、気持ち的な面、心理的な面は十分に考えていくということがやっぱり必要なんじゃないかなと。やっぱりあの学校に行ったら思い出がずっと一生残るといって、そういうイメージを持っていると思います。それを大切にしていきたいなということを申し上げたいと思います。</p>
会長	<p>事務局より統廃合が望ましてという原案が示されましたが、具体的にはどのように考えておられるか事務局よりお願いいたします。</p>
事務局	<p>具体的な考え方ということで、これから示させていただきたいと思います。そしてまた次回のご審議の時に議論していただきたいと思っています。事務局としては、具体的には、多田グリーンハイツ地区におきましては、陽明小学校に統合ということを考えております。その理由は、中学校に非常に近く、将来の教育改正や学校敷地を利用した環境教育などの可能性が見込まれることによります。清和台地区につきましては、清和台南小学校の方に統合を考えております。その理由としましては、清和台小学校より清和台中学校に近く、施設のやや大きく、また運動の用地を利用した環境の教育などの可能性が見込まれることによります。陽明小学校には、敷地内に土山でありますとか遊具の施設などが設置されておるところでございます。こういった所が自然環境と触れ合うところに大きく寄与されているのではないかなというところからも陽明小学校というところを考えております。</p> <p>清和台南小学校ですが運動用地の南側に植栽帯でございますとか、少し大きな池でありましたりとか、先程の陽明小学校と同様に山でありますとか遊具設置などから、自然環境と触れ合うところに寄与された環境から考えまして、清和台南小学校というふうを考えております。以上でございます。</p>
会長	<p>只今事務局から具体的な案が示されたわけでございますが、今特にご意見とかございま</p>

	せんか。
委員	統廃合する時期はいつ頃を考えているんですか。いつ頃までが目標なのか。何年度にはやりたいという考えはあるんですか。
事務局	新入生が1学級になりますのが30年前後になりますので、そのころを目途に考えております。逆算していきますと、今年の夏ぐらいに答申をいただいて、動き始めて、すぐそこに間に合うようにイメージしておりますので、そういうスケジュールを考えております。
委員	具体的に30年ごろとおっしゃいましたけども、例えば30年の3月末とか。入学・卒業年度、そこに非常に保護者は関心があるところですけども、ゴールではなくて具体的に。特に6年生に上がっている子は、最後ここで卒業できるのか、6年生だけは向こうでとか色々あります。
会長	今おっしゃったことは、私の近くで統廃合がありましてね、統合されてしまう方の学校の子が新しい学校へ移動なのか、それともそこで卒業までいけるのかというのは非常に大きな問題で、そこまでまだ具体的に事務局の方で考えてないということであれば、今の時点では結構だと思うんですけど、何か決まっていれば。
事務局	例えば統廃合となった場合のアナウンスの時期ですとか、経過措置で少し年度変わるかもしれないんですが、児童数等だけで考えた時には30年4月には新しい学校でというのが望ましいかなと考えております。
会長	つまり統合される学校の側の子は新しい学校へ移るということですね。
委員	それともう1点。これを今日は一応この委員を共有しているわけですけど、部外に対する事務局としてのアナウンスは。例えば議会に構想をそういうのはなかったですか。
事務局	市議会への情報の提供でございますが、この審議会の資料につきましては随時市議会の方に資料提供させていただいております。答申をいただきましたら、その答申内容につきましては情報提供させていただくことを予定しております。
	市議会へは教育委員会の1つの目安として、平成30年という年度を提出しております。あくまでも教育委員会の案ということで、正式にはここできちっと協議したうえでの活動というふうに考えております。
会長	時間の関係もございますので、議事の1点目はこのあたりにいたしまして、また次回以降継続審議とさせていただきたいと思っております。 本日は新しい議事が2点目として出ております。そこでは諮問をお願いいたします。
	～ 諮問 ～
会長	それでは事務局より説明をお願いいたします。
事務局	それでは事務局の方より説明させていただきます。諮問書をご覧ください。 これは松風幼稚園、多田グリーンハイツ内にございます。廃園に伴う園区の設定についてとなっております。松風幼稚園の廃園につきましては、川西市子ども子育て会議におきまして、平成27年度から平成31年度までの5年間の川西市子ども子育て計画(案)が策定されておりまして、その中で松風幼稚園の廃園が計画されているところでございます。 最短でも平成29年度末の廃園が見込まれていることから今回諮問書を提出させていただいたところであります。

続きまして資料の説明に入らせていただきたいと思います。資料2及び3の図面をご覧ください。資料2につきましては、川西市の中部と北部を掲載した図面となっております。

松風幼稚園の隣接園区を示したものになります。資料3につきましては、松風幼稚園区と多田幼稚園の位置関係を示させていただいたものとなっております。両方を見比べてご覧いただきたいのですが、資料2の真ん中に松風幼稚園がございます。資料3はその拡大となっております。松風幼稚園の位置が資料2では緑色でお示しさせていただいており、全園区緑色のが各幼稚園の位置でございます。その中で隣接を見ていきますと、松風幼稚園の下にある多田幼稚園となっております。左側が清和台幼稚園の園区となっております。北側、上に行きますと、東谷幼稚園。ななめ右上が牧の台幼稚園となっております。それぞれ隣接の位置関係を見ていただけたらと思います。資料3ですが、松風幼稚園ちょうど多田幼稚園と清和台幼稚園、同じような距離感でございますけど、資料3をご覧くださいますと、松風幼稚園の斜め左側に青い線で斜め左側に示してございますが、先ほどからもお話しがありましたように多田グリーンハイツ地区については高台に位置していると。考え方とすれば、松風幼稚園区のかたち部分がちょっと高くなっているとお考えいただけたらと思います。そして左側に主要地方道川西篠山線という記載がございますけど、ちょうどこれが川沿いになっておりまして、言わずと左側の隣接、清和台幼稚園区との谷筋になっているというようなイメージで平面図をみていただければと思います。次に北側、上の方にまいりますと、松風幼稚園の北側ですが、清流台という表記があると思います。ちょうどグリーンハイツ、水明台4丁目という表記がございます、緑台中学校という表記がございますが、そこまではある程度高台になってございまして、ここから清流台というところが低くなっているというようなところなんです。続いて下の多田幼稚園というところですけど、これも松風幼稚園の園区、ちょうど真ん中、横に道路が走っていますが、そこから下が下りに傾斜しているということになっております。多田幼稚園に行くまでは下の方に下がっていくんだというような平面図の見方をお願いをできたらと思います。図面の見方は以上でございます。続きまして、資料の4をご覧ください。これは松風幼稚園区と、廃園後の幼稚園区を表で示させていただいたものになります。表の左側が現行園区、右側が新しい園区となっております。新しい園区の内容でございますが、これは松風幼稚園が設立される前、昭和49年設立でございますが、当該園区は、設立前は多田幼稚園区であったことにより、新しい幼稚園区を多田幼稚園と示させていただいている表でございます。説明は以上でございます。

会長

ありがとうございます。これは本日の頭出しで特に結論を出すということではございませんけれども、今回初めて示された議事でありまして、資料も初めて提出されたものでございます。まず資料についてご質問ございませんか。

委員

この松風幼稚園廃園問題というのは昨年度11月6日の子育て会議で案を示されたわけでございます。その間校区審議会は12月、1月で、これで4回目か3回目になって時間があるわけですが、今なぜこれが校区審議会に出てくるのか。そして今区域とかかそういう説明がありましたけど、なぜ松風幼稚園が廃園になるのかという前段の説明が全然なくて、今説明されたように感じるわけですが。ここにいらっしゃる委員の皆さんが松風幼稚園がなぜ廃園になるのかというのを知っておられる方もいらっしゃると思いますが、その前置きが無かったと。それから11月6日からどういう動きがあったかなど、昨日ホー

	<p>ムページにたくさんのこれに関する情報をアップされておられますけど、今の状況の中で29年云々という話がありましたが、現実的な市の考え方としては時期を明記されない表現になっております。そういう前段の説明なくして、廃園区域はこうなるんだよというような説明は、乱暴かなという感じがするわけです。</p>
<p>会長</p>	<p>その経緯の説明をお願いします</p>
<p>委員</p>	<p>幼稚園の数ですね、廃止される学校の数がどれくらい、まわりがどれくらいと。何の資料もなかったら全くわからないのでね。それで協議というのは土台無理な話で、そんな幼稚園のこと知らないですから、全く。もう少しゆっくりやって欲しい。</p>
<p>委員</p>	<p>委員が言われたことと全く同じなんですけど、実は平成4年から5年の時に松風幼稚園の廃園という話があり桜が丘幼稚園と。その当時桜が丘幼稚園の保護者が何とかしてほしいと言うことで、桜が丘幼稚園は1年伸ばして、そのあと廃園になった。松風はそのまま現在に至っているわけです。その時に入園数が問題になったんですね。桜が丘幼稚園は入園数が3人か4人。実際には次の年に1名しかなく仕方ないから諦めました。松風幼稚園も少ないということでしたが廃園になっていないですね。過去5年間、これからの5年間の推計でもいいから出してもらわないと、現状はそこにあると思うんです。幼稚園児が少なくなっているんで廃園にするっていうのをまず第一の理由だと思うんですよね。子どもたちがたくさんいるのに廃園する言うのはおかしい話だからその数字を出さないと。</p>
<p>事務局</p>	<p>初め資料の方が少し不十分だったようで申し訳ございませんでした。今資料はないのですが、説明させていただきます。また、公立幼稚園の在り方につきましては、川西市の子ども子育て会議の方で議論いただいております。その計画の中で松風幼稚園については廃園という案になっているところでございます。川西市内に関しましては公立幼稚園が9園ございます。で、私立幼稚園が8園ございまして、川西市におけます幼稚園教育におきましては公共幼稚園と私立幼稚園が連携を図りながら進めてきた経緯がございます。昭和40年代の大規模開発の時に公立幼稚園の設立が間に合いませんで、私立幼稚園に来ていただいたという経緯から、川西におきましては公立幼稚園と私立幼稚園とで幼稚園教育を進めてきたという経緯がございます。その中で現状としまして、公立幼稚園の園児数が相当減っております。減って、平成26年の数字でございますが約600名ほど。一方で私立幼稚園の方につきましては1700名ほど。更に言いますと、市外の私立幼稚園に行かれている方が600名近くいらっしゃる。公立幼稚園がかなり小規模化しております。この松風幼稚園でございますが、廃園とした主な理由でございますが、その前に、公立幼稚園を今後どうしていこうかという方針ですが、公立幼稚園と公立の保育所とで認定こども園化を進めていこうかという方針がございます。その中で松風幼稚園が廃園となった理由でございますが、1つ目が園区内の園児数の減少でございます。推計を見ますと、平成30年度には区内の4歳児が40名を見込んでおります。この40名のうち、私立幼稚園に行かれる方もございますし、保育所に行かれる方もいらっしゃいますし、松風幼稚園に来ていただく方もいらっしゃるという事で、過去3年の収園率からすると、40名のうち6名が松風幼稚園に入園されるだろうという推計。幼稚園教育につきましては学校教育ですので、一定の集団規模が必要だということで、6名では少し集団教育が難しいのではないかと。2点目が、松風幼稚園の園区内に私立幼稚園が2園ございますということと、3点目が、例えば法律で認定こども園化を図っていく方針ではございますが、松風</p>

幼稚園の相手方となる公立の保育園が地域内に無いというところを総合的に勘案しまして、松風幼稚園に関しては廃園案となったところでございます。ご指摘いただきました子ども子育て計画の中では、廃園時期と言うのは明記しておりません。ただ、地域の方・保護者の方への説明会、その後の協議のなかでは、事務局としては最も早くて平成29年度という説明をしておりましたが、ご意見等をいただく中で廃案時期につきましては今後協議していくということになっております。ただ、最短で29年度ということでございますので、廃園後の園区につきましては協議いただいて、地域・保護者の方からも廃園になった場合、自分の園区はどこになるのかというようなご質問も多くいただいておりますので、廃園となった場合の園区についてもこの時期に協議いただきたいと思いますと思っておりますので、ご質問をいただいた次第でございます。

委員

ふたば幼稚園が加茂幼稚園に統合されましたよね。平成22年。でも園区は一緒だったかな。

事務局

ふたば幼稚園と加茂幼稚園を統廃合しまして、今、加茂幼稚園となっているところがございます。それまでの経緯としまして、加茂幼稚園から独立というかたちでふたば幼稚園が出来たという経緯がございますので、その時の統廃合につきましては元の加茂幼稚園の園区に戻るというかたちとなっております。

事務局案でございますが、松風幼稚園が廃園となった場合につきましては、多田幼稚園の園区に含めようという事務局案でございます。先ほど理由については説明させていただいたとおりですが、少しまとめて要旨として説明させていただきますと、近隣の幼稚園と距離を比べた場合、地図上は左にあります清和台が少し距離が近いですが、地形の関係で、ちょうど谷間になっておりますので、歩いていくにはかなり遠回りになります。かなり距離が遠いということで、距離で言いますと多田幼稚園が近い所がございますということと、松風幼稚園ができる前のグリーンハイツ地区の園区が多田幼稚園区とありましたので、以前の園区に戻すということで事務局案としまして多田幼稚園区ということをお知らせさせていただいております。

委員

すいません。ふたば幼稚園のときは、加茂幼稚園に統廃合した時に、3年後にするという話だった。川西で初めて。今回はどうなの。そういう話に全然触れてないけど。私立園とのことがあると思うけどどうなってるのかな。保護者の方々もそういう希望が結構あるわけですよね。こうなった時にどういうふうな。

事務局

幼稚園との関係でございます。先ほど説明させていただきましたように、これまで連携して役割分担をしながら幼稚園教育を進めてまいりました。役割分担の一つが、ご指摘いただきました3歳児保育でございます。基本的には3歳児保育については私立幼稚園の方に担っていただくということで進めてまいりました。ただ、例外的に、公立幼稚園で3歳児保育をしております幼稚園は、加茂幼稚園1園でございますが、こちらは近隣に私立幼稚園がないということで3歳児保育をさせていただいております。今後の公立幼稚園における参加においた取組みでございますが、基本的な方針としましては公立幼稚園と公立保育園で認定こども園化をしていく方針でございます。認定こども園化にあたりましては、3歳児保育もそうですし、昼食の提供なんかも実施していく予定としております。そうなりますと、それまでの私立幼稚園との役割分担、担保をどうするのかというところでございますが、1つは今回の松風幼稚園の廃園もなんですが、適正配置をまず考えていこうとい

委員	<p>うことと、この4月から始まります新制度におきましては、最終的なかたちとしましては、公立幼稚園、私立幼稚園、保育料が同じになってくるものと思っております。今現在、教育委員会事務局が考えている保育料の案につきましても、すべての階層で、公立私立同じということまでは至っておりませんが、約半分の所得の階層におきましては公立幼稚園と私立幼稚園で保育料を合わせております。今後保育料を少し合わせていくかたちの中で公立幼稚園・私立幼稚園で幼児教育を進めていきたいと考えています。</p> <p>一括して県の補助金が市に託されて私立園に出す場合はそういうかたちになるけども、従来どおりの私立園が県の補助金でやるのではないのでは。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり新制度が始まりますが、私立幼稚園としては選択肢が2つございまして、新制度に移られる園、従来どおりの制度でいかれる園に分かれてきます。私が説明させていただいたのは新制度に移る園が対象ではございますが、国の大きな方針としましては新制度の方に最終的にはすべての保育園、幼稚園が入ってくるというような流れでございますので、当面は旧制度に残られる幼稚園につきましては少し状況が異なってまいります、長期的な視点で見るとすべて同じ枠組みの中に入って、保育料も公立・私立が同一になってきてというようなことだと考えております。</p>
委員	<p>今の説明は、誤解を招きそうな説明で、全然知らない人が、聞いていたら、実際は違うわけやから。幼稚園の理事長でやっているから分かるけども、誤解するような説明したら困るんです。本来の松風幼稚園のことは、入園児の数を教えて欲しいのと、過去5年間・将来的な5年。それを次回の時に出してもらえたらありがたい。</p>
事務局	<p>資料につきましては次回ご案内させていただきます。</p>
委員	<p>なんだって早めに動いてね。このままじゃ難しい。</p>
会長	<p>その廃園になる前の園区をどうするかということをごちらが審議するということですね。子ども子育て会議でどういう理由でこういう案件が出てき、どういう資料を基にどういう議論がされたのか。そういうことも、バックグラウンドとして、この場で議論するという事じゃないかもしれないですけど、おそらく我々の方も抑えておく必要があるんじゃないかと。</p>
事務局	<p>幼稚園の廃園を含みます再編プランにつきましては次回資料の方で説明させていただきます。また資料の配布の方も少し早い時期にお渡しさせていただいて、見ていただくように進めてまいります。</p>
委員	<p>私も経緯というか、初めて知ったもので、数字的なものも含めてなんですけど、子ども子育て会議ですか。資料を。</p>
委員	<p>資料等はやっぱりいただきたいなと思います。もう一つ、松風幼稚園のところから多田幼稚園の方に、今幼稚園の方は登園降園が保護者と歩いてくるというようなかたちになっているんですけど、本当に多田幼稚園のあの坂をあの細い道をね、保護者と一緒に来れるのかなと。校区が変わって、実際の所危なくて仕方がないんじゃないかということ。登園の仕方についても、それこそ連れて来て良いのか、車で途中のところまで送って良いのかとか、そのあたりのことも考えていかないと、やっぱり単に園区をこうするというのはいえないんじゃないかなと思っています。</p>
委員	<p>今委員がおっしゃったとおりだと思います。それが表面化して、松風幼稚園の近くのお母さん、保護者が4歳児を連れて歩いていく。往復で2時間かかると。じゃあ帰りはどう</p>

	<p>なるのか。これをお昼の忙しい時に迎えに行くというような問題も現実には出ておる。そういうことを含めまして、足の問題については要望しているところですが、色々と市内のルールがあるようです。</p> <p>委員 こういう場合は経過がないんですよ。当たり前になっているけど、実際にはこうですよという説明がないとわからない。本当に厳しいですよ、場所的に。</p> <p>会長 1月に文科省から小学校・中学校の統廃合に関する手引きが通知されたということで、幼稚園に関してはないのですか。</p> <p>事務局 存じ上げておりません。ただ、幼稚園の規模に関しましては、先ほど言いましたが学校教育ですので、一定の規模が必要だろうということで。例えば文部科学省の研究会なんかでは20人程度は必要だろうというような研究の報告等が出ています。</p> <p> 公立の保育所が川西には8園ございます。民間の保育所等のデータ、今持ち合わせておりませんので次回提示させていただきたいと思います。</p> <p>会長 この案件につきましては、次回資料を基に議論するというところでよろしいでしょうか。さて、議事の3点目その他でございます。</p> <p> これは次回の第7回の川西市中学校校区審議会の日程についてでございますが、4月の中旬から下旬に開催するという事を考えております。これにつきましてはですね、事務局と調整したうえで改めてご連絡させていただきます。他に委員各位からなにかございませんか。それでは、本日はこれをもちまして閉会とさせていただきます。ありがとうございました。</p>
--	---